

## 令和7年度 第3回奄美市子ども・子育て会議 議事録

開催日時	令和8年3月18日(水)13時15分～
開催場所	奄美市役所 5階大会議室
出席者 (14名)	吉村委員(委員長), 加世田委員(副委員長), 麻井委員, 當田委員, 福田委員, 川内委員 座安委員, 榮委員, 川畑委員, 西谷委員, 前田委員, 宮内委員, 石川委員, 河野委員
事務局	福祉事務所長, こども未来課, 福祉政策課, 健康増進課, 重点政策推進監, 学校教育課 住用総合支所市民福祉課, 笠利総合支所いきいき健康課, 笠利総合支所地域教育課
<議題>	<p>1 開会 辞令交付 市長挨拶(副市長代読)</p> <p>2 協議 (1) 第3期奄美市子ども・子育て支援事業計画代用計画の策定について (2) 乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の認可について (3) 教育・保育施設の定員変更について (4) 就学前教育・保育施設整備交付金の整備計画について</p> <p>3 報告 (1) 児童育成支援拠点事業について (2) 令和7年度奄美市の子育てに関するアンケート調査について</p> <p>4 その他 住用・かさりこども園の落成について</p> <p>5 閉会</p>
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
<p>進行 委員長</p> <p>協議(1) <u>第3期奄美市子ども・子育て支援事業計画代用計画の策定について</u></p> <p>事務局:こども未来課 資料1に沿って説明</p> <p>質疑(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3期計画に、乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)記載されているか？</li> </ul> <p style="margin-left: 2em;">→P134に量の見込み、確保方策を記載している。運用開始後に見込み量が変わってくると想定している。</p> <p>協議(2) <u>乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の認可について</u></p> <p>事務局:こども未来課 資料2に沿って説明</p> <p>質疑(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月から本格スタート。当初は使いたくても使えない状況もあると思うが、朝仁保育園でも早期に受け入れできるよう準備を進めているところ。名瀬地区でも徐々に定員枠も増えていき、使いやすくなっていくと思っている。</li> </ul>	

制度上、ひと月当たりの利用時間で考えると慣れさせるだけという状況が想定される。先行自治体では定期的な利用をする人が多いと聞いている。

保護者にとってはリフレッシュなどに利用でき、子は同世代との交流ができる点でメリットがある。

- ・ 3か所開設ということだが、名瀬の方が笠利の園を使うことができるのか？慣らし保育のようなものはないのか？面談だけ？
  - 事前に登録、面談をすれば、居住地に限らず利用できる。  
実際に保育現場からも、慣れない子どもを預かることへの不安もあると聞いている。
- ・ 子どものことを考えると案ずるところがある制度である。園庭開放などをして、園に少しでも慣れた上で、誰でも通園制度を使うようにしたらどうか。
- ・ 予約はどのようにするのか？
  - 国のポータルサイトを使って、利用申請→認定を受けた後、サイトを通して施設に予約をする。
- ・ まだ療育を受けていない支援が必要な子ども、面談したうえで当制度を利用ができるのか？
  - 面談をしたうえで、施設が受け入れることができるか判断することになるであろうと考えている。

これらの意見を今後の事業実施の参考にすること。

### 協議(3) 教育・保育施設の定員変更について

事務局:こども未来課 資料3に沿って説明

質疑(主な内容)

- ・ みつばち保育所は新築移転で広さ、職員も確保できていると聞いている。  
現在、市全体で年度途中に0～2歳の待機児童が発生しており、それらにも対応できると考えている。
- ・ 0歳児より、1歳児の定員が多いが大丈夫か？
  - 小規模保育利用者は、月齢が上がると転園を希望する家庭も多いので対応可能だと思われる。
  - 0～2歳児の定員の枠の中で、柔軟に運用できると考えている。

### 協議(4) 就学前教育・保育施設整備交付金の整備計画について

事務局:こども未来課 資料4に沿って説明

質疑(主な内容)

- ・ 春日保育園で児童発達支援施設を併設できるようにとの説明だが、既存ののぞみ園とのすみ分け、整理はどうなっているのか？
  - 春日と同じ聖隷福祉事業団ののぞみ園の約半数が春日保育園との並行通園となっている。  
聖隷福祉事業団ではインクルーシブを進めたいという理念があり、支援が必要な子もそうでない子も同じ場で過ごすことを目指す中で、春日保育園内に児童発達支援を創設したいと考えている。  
春日保育園に通う療育が必要な子のうち、のぞみ園に並行通園する子、春日の児童発達支援を利用する子とすみ分けすることになると考えている。  
療育スタッフ不足の中、施設内に児童発達支援事業を併設すると、送迎やお昼寝に掛かる人的負担も軽減できると考えている。
- ・ 療育施設に通う子は、保育所全体の約16%と増えている。  
奄美市ではのぞみ園頼みになっている。全国では保育園に療育施設を併設し、保育施設の多機能化が進んでいる。各保育所も参考にしていけたらよいと考えている。

報告(1) 児童育成支援拠点事業について

事務局:福祉政策課 資料5について説明

質疑なし。

報告(2) 令和7年度奄美市の子育てに関するアンケート調査について

事務局:こども未来課 資料6について説明

質疑

- ・ アンケート結果を細かく見ていくと奄美市の課題が見えてくると考えている。
- ・ 満足度が低く、要望の多い項目である経済的負担軽減について、令和8年度から小中学校の給食費無償化や、住用地区では定住促進を目的とした紙おむつ代の助成が始まる見込み。まだまだ足りない点はあるが、こういうアンケートを分析しながら、奄美市でできることを少しでも検討していきたいと考えている。

その他

- ・ 3月19日 住用こども園、笠利こども園の落成式
- 3月20日 午前9時から12時 一般の方向けに内覧会開催
- ・ 今度のスケジュール